



二中だより

第5号
令和7年8月27日(水)
拍江市立拍江第二中学校
TEL 03-3480-8891
FAX 03-5497-7362
<http://www.komae.ed.jp/jh/02>

「戦後80年」と「相互敬愛」と

校長 植村 多岐

今年は「戦後80年」という節目の年にあたり、夏休みの間にも戦争に関する報道が例年以上に多く見られました。広島・長崎への原子爆弾の投下。戦地での日本軍の過酷な実態。そして戦争によって失われた数え切れない命の重み。これらは、私たち一人ひとりが次の世代へと確実に引き継いでいかなければならない「記憶」です。

1945年8月15日、日本は約310万人もの命を失い、第二次世界大戦に敗れました。それから80年。日本は「戦争をしない国」として歩み続け、戦後一度も戦争に巻き込まれることなく現在に至っています。この80年にわたる平和の歴史は、私たち日本人が誇るべき成果の一つだといえるでしょう。

しかし、世界に目を向けると、現実は厳しく、希望だけでは語れません。現在もお、ウクライナではロシアの軍事侵攻が続き、パレスチナ・ガザ地区ではイスラエルによる激しい攻撃が行われています。家を失い、家族が引き裂かれ、学校にも通えない。そうした過酷な日常を、子どもたちまでもが強いられているのです。いくら国際社会が協議を重ねても、平和は簡単には実現されません。

では、なぜこのような争いが続くのでしょうか。もちろん、歴史的、政治的、経済的な背景はあるでしょう。しかしその根底には、「力で相手を屈服させようとする心」が潜んでいるのではないのでしょうか。対話や理解、思いやりではなく、武力や暴力、支配によって物事を解決しようとする姿勢が、今なお世界のあちらこちらでまかり通っているのです。そしてこの考え方は、実は私たちの身のまわりにも存在しています。たとえば、「いじめ」。いじめも、ある意味で「人の心の中の戦争」といえるのではないのでしょうか。相手を理解しようとせず、自分の気持ちや都合だけを押し付け、言葉や態度で他人を傷つける。この構造は、今世界で起きている戦争と本質的に変わりません。だからこそ、私たちはまず、自分たちの生活の中で「暴力」や「差別」「無理解」といった火種をなくしていく必要があるのです。

今日から2学期が始まります。幸いにも、私たち二中には「相互敬愛」という教育目標があります。これは、文字通り「互いに愛情や思いやり、敬意をもって、違いを認め合うこと」を意味します。二中が掲げるこの「相互敬愛」は、まさに戦争を遠ざけ、平和な社会を築くための“魔法の行動”と言えるでしょう。ですから私たちは、この言葉を、ただのスローガンとして掲げるだけで終わらせられません。本気で実践すること。それこそが学校を、地域を、そして社会全体を、より平和で温かなものへと変えていくのだと思います。

戦後80年という節目の今、もう一度問い直してみましよう。「平和とは何か」「私にできることは何か」

そして、戦争を単なる過去の出来事としてではなく、人間なら起こしてしまう可能性のある現実として捉えることが大切です。まずは日々の行動を振り返り、自分の言動が誰かを傷つけていないか、自分のまわりに「争いの芽」がないかを点検することです。皆さん一人ひとりの小さな心がけが、やがては大きな「平和の力」となり、将来、世界に貢献できる力の土台となることでしょう。

最後に、世界に冠たる平和憲法である日本国憲法。この憲法にのっとった我が国の「教育の目的」を紹介します。

<教育の目的>

【教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成】を期して行わなければならない。 ～教育基本法 第一条～より

この理念のもと、私たちは歩み続けています。そしてその歩みの一歩一歩が、平和を守る力へとつながることを信じて…

